

北海道社会保険病院だより

平成17年1月15日 第11号

新年のご挨拶



院長 岸 不盡彌

新年明けましておめでとございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は「災」の年といわれるほどに、国内外ともに地震や台風などの災害が数多くあり、中でも年末26日のスマトラ沖の大地震とインド洋津波は15万人以上の犠牲者が出たといわれ、多くの被災者の方には心よりお見舞い申し上げます。天災は誰も避けることは出来ませんが、日頃から備えをすることで最小限の被害にとどめるよう努力したいと思います。

私たちの健康も、日頃からの健康診断による早期発見や、生活習慣病の予防策、何か症状があるときには我慢せずに医療機関を受診し早期の診断・治療を受けるよう心がけたいものです。当病院では、利用者や患者様のために「相談室」を設けておりますので、気になることがございましたら、いつでもお声をおかけください。

今年も、昨年開設の腎臓内科が透析業務を軌道に乗せて地域の多くの腎不全の患者様の要望に応えることが出来るようになります。また、4月からは新たに麻酔科による外来ペインクリニックの開設を予定しています。この地域で必要とされる医療を提供するだけ力になるように努めていきたい

と考えています。また、ご利用の患者様には臨床研修病院としてご協力をお願いすることもございますので、その折にはよろしくお願い致します。

本年も職員一同、患者様を中心とした質の高い医療サービス、保健予防活動および福祉の向上を目指して参ります。皆さまのご健勝とご多幸をお祈りし、この1年が平和で穏やかな年であることを祈念致します。

放射線部の紹介

放射線部技師長 辻 宏

一 はじめに

放射線部には、診療放射線技師13名、受付職員1名がおります。他に看護師が2名常駐しています。血管撮影の時は、医師・看護師が関係部署から出向して業務に携わっています。部内にはX線写真読影室があり放射線科葛西健二医師がCT・MRIの読影をしています。また適宜、ご指導を受け業務を行っています。

病院移転時に機器は更新し、特にCT、MRI、血管撮影装置は最先端の高度医療機器を導入しました。機器の性能を有効活用し、「患者様に優しく、質の高い画像情報を提供する」を放射線部の最大目標にしております。

二 検査室の特徴・検査説明

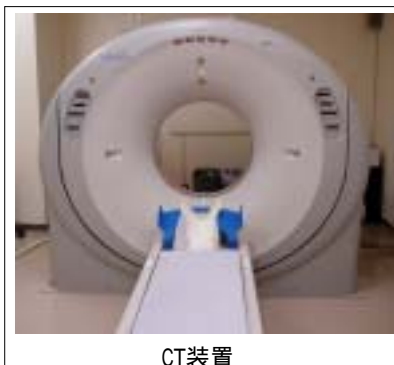
1 一般撮影は、主に胸部、腹部、骨の撮影を行い、デジタル画像システムを使用して、画像処理をして最適画像を提供しています。

2 CT「コンピュータ断層撮影装置」は、最先端CTを2台設置して、検査を行うっており年間一万件施行しています。

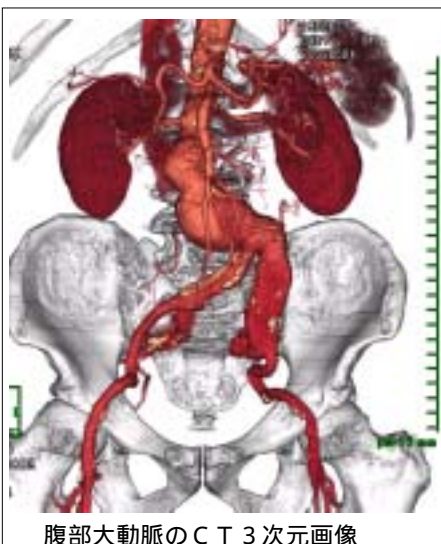
エックス線管球と検出器が対になって体の周りを回転して横断像（輪切りの画像）を作ります。さまざまな方向の断層像や3次元画像を後処理で作成して血管系を含む病変を明瞭に表現できます。全身が適応です。

また、心臓の冠状動脈の石灰化及び血管形状の異常や肺癌の早期発見等、胸部の検診には非常に有用ですのご利用下さい。（主治医または健康管理センター「電話831・2606」へご相談して下さい）

3 MRI「磁共鳴画像装置」は、強い磁石と電波を使って体の任意の断層像を作成します。

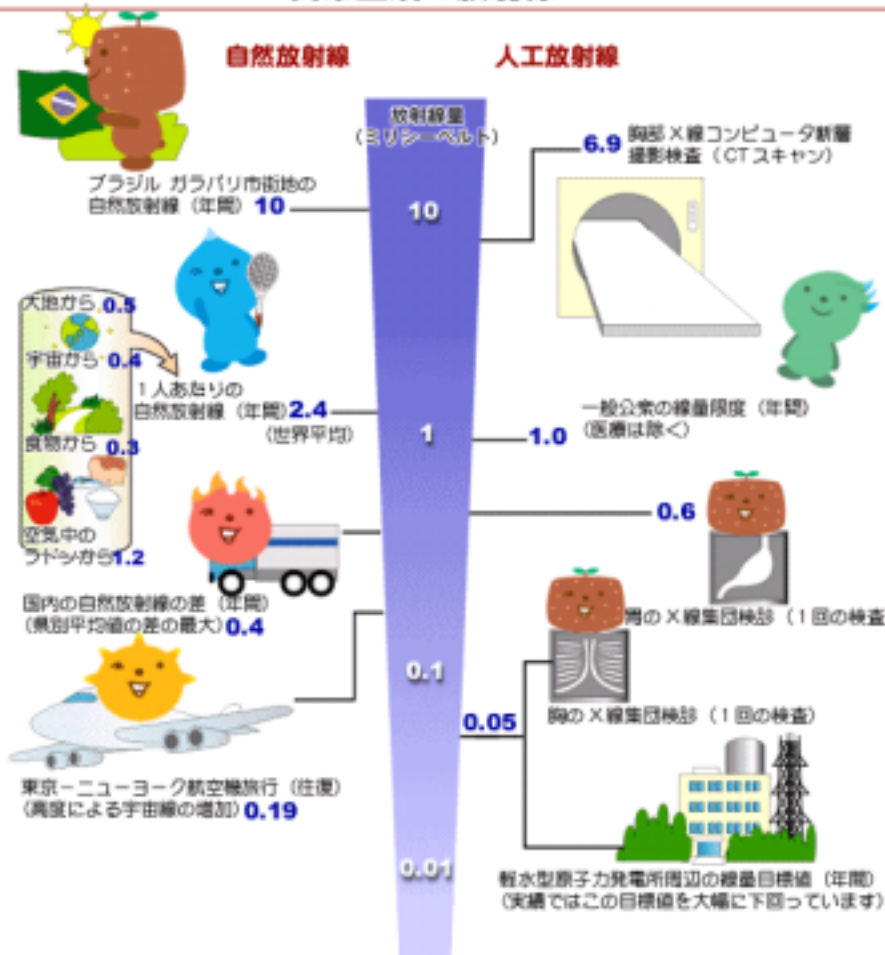


CT装置



腹部大動脈のCT 3次元画像

日常生活と放射線



体内の水の量と質を画像にして診断します。年間3700件施行しています。磁場強度が1・5テスラの装置を設置して、ほぼ全身適応ですが、特に脳、心臓領域、脊柱・脊髄、肝臓、脾臓、胆嚢・胆道、骨盤腔に有用です。心臓領域の最先端検査も多数施行しています。

4 血管撮影は、心臓専用は2台、消化器用を1台設置しております。他施設では導入が難しい超最先端装置（フラットパネルデテクタ搭載）が導入され、年間1400件施行して

います。

血管内にカテーテル（細い管）を挿入して、その先端を目的部位まで進めて造影剤を注入して、血管系や病態を明瞭に描出して診断します。

IVRや血管内治療と呼ばれる治療も行っています。心臓では、狭窄・閉塞部位の拡張、腹部では、腫瘍を栄養している血管へ抗癌剤の注入、腫瘍を栄養している血管の塞栓術などを行っています。中でも心筋梗塞の治療は多数施行しています。

カテーテルは手首や足の付け根の血

管から挿入します。小さな傷のみで低侵襲に検査・治療が行えます。

5 RIは、ラジオアイソトープ検査または核医学検査のことです。SP ECT（スペクト）と呼ばれる装置を設置しています。

微量の放射線医薬品を注入します。特定の臓器に集まった医薬品を、体の外からガンマカメラと呼ばれる装置で測定して画像にします。

この検査の特徴は、代謝や機能（臓器の働き）を画像にして診断できることです。

主な対象臓器は、脳、心臓、肺、骨等です。

2 放射線は、無駄には被ばくしないことが大事ですが、病院で使用している検査等では被ばくによる「リスク」を遙かに超える「有益性」があり、必要な検査のみを行っています。

3 ミリシーベルトで、年間に受ける自然放射線「宇宙線や大地・食物からの放射線」の量（24ミリシーベルト）の40分の1〜8分の1です。なお、100ミリシーベルト以下なら感受性の高い胎児でも危険はなく、また遺伝的影響では約500ミリシーベルトまではないと言われています。

6 その他、健康管理センターの放射線関係の検査も放射線部で行っています。一般健診の他に乳房撮影（マンモグラフィ）による乳房検診、骨塩測定（骨粗鬆症検診）の施行とCTによる胸部、脳検診も申し込みを受け付けておりますので希望される方は健康管理センター（電話831・2606）へ申し込み下さい。

三 X線の被ばくに関して

X線検査を受けるとX線被ばくのことですが心配という方が多数おられますが、診断のための検査ではお考えになるほどの心配はありません。

1 胸部X線写真1枚での被ばくは、0・06〜0・3

編 集 後 記

お正月を寝正月で過ごし、体重増加に驚いている方が、意外と多いようです。念のため体重測定の上、もとの体重に戻すようにしてください。

編集責任者
事務局 佐々木憲一

北海道社会保険病院
TEL : 011-831-5151

URL : <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>

四 おわりに

今後も被ばく軽減や質の高い画像情報を提供するよう努めますので、安心してご利用下さるようお願い致します。